

東久留米市立図書館協議会による平成 27 年度図書館事業評価

図書館協議会では、平成 25 年度事業については、「資料収集・選書」「中央図書館のサービス」「地区館のサービス」「東久留米に関する資料の収集と関連事業」「子ども読書活動」の 5 領域を、平成 26 年度事業については、「資料収集・選書」について評価を行いました。

平成 27 年度事業については、地区館に指定管理者を導入して 3 年目となり、中央図書館、各地区館とも役割に応じた事業が充実してきたことから、とりわけイベント関係について評価を行いました。

図書館がまとめた「平成 27 年度東久留米市立図書館事業及び自己評価」（別紙）を受けた図書館協議会の意見は、以下のとおりです。

図書館事業についての図書館協議会の意見

1. 中央図書館の事業について

評価できる事業

ア) 子ども読書活動

- ・子ども読書活動優秀実践図書館として文部科学大臣表彰受賞したこと
- ・「パパ読」や幼稚園・保育園訪問の新規実施など、幼児・児童の読書推進の進展
- ・東久留米市にゆかりの作家である古田足日氏関連の展示
- ・学校と連携した事業の進展（調べ学習発表会・学校訪問など）

イ) 図書館フェス

- ・「ひとハコ図書館」により、本を楽しみ市民交流を図ったこと
- ・講演会「新しい図書館のはじめ方」の開催と、図書館の現状と将来を市民と共に考える一連の活動を行ったこと
- ・市民が参加する事業を企画したこと

ウ) 地域資料収集と「語ろう！東久留米」

- ・市民の体験など東久留米の近現代を市民が語る「語ろう！東久留米」の実施
- ・地域資料展示の充実と戦後 70 年を記念し戦争関連展示や講演会を実施したこと
- ・東久留米七福神めぐりへの出展

エ) レファレンスサービス（司書による調査・学習支援）の充実

- ・レファレンス件数の伸びと課題解決型サービスの向上

オ) その他

- ・男女平等推進センターとの連携事業と所蔵図書のデータベース化
- ・行政の責任ある図書館として地区館とは違う専門性の高い業務と新規事業の実施

今後取り組んでほしいこと

ア) 事業について

- ・さまざまな図書館サービスや図書館利用法の PR が必要で、特に国会図書館の情報サービスや就職仕事情報コーナーの強化を願う。
- ・学校との連携を強化し、授業支援や調べ学習発表会の充実をめざしてほしい。
- ・中学生の図書館体験は重要である。(現状では利用は少ないが、将来は子を持つ親となり地域住民となる可能性がある点で) 青少年むけ企画の充実を願う。
- ・幼児・児童の読書推進は基本中の基本であるが、今後は子供や学生、若者に図書館の魅力をどう見せるかが最大の課題である。
- ・「語ろう! 東久留米」や戦争展示は社会的意義が高い。共通認識を持つために未来を担う子供もふくめ各世代に参加してもらおう工夫が必要である。
- ・図書館の現状及び将来について市民と共に考える「図書館フェス」はよい機会であり、今後も定期的に開催することが望ましい。
- ・デイジー図書(活字資料を音声化したデジタル資料)利用者が点字を朗読し、子どもが音読するなどの新たな交流事業を提案したい。

イ) 資料収集について

- ・行政や議会資料の収集に力を注いでほしい。
- ・地域資料の収集保管、展示を継続し、充実させてほしい。
- ・学校への選書のための資料情報提供や学校教育への支援を進めてほしい。
- ・読書に入るきっかけは、現代では、まんが、アニメ、ゲーム、音楽、電子出版から入り、児童書、教科書、一般書、専門書へと導かれると思う。まんがの検討など、資料収集については、若手職員の研究委員会を作り、委員に学生を採用してはいかかがか。

ウ) 運営について、その他

- ・イベントの案内をスーパー等に置かせてもらう検討をしてはどうか。
- ・図書館の現状で蔵書の増加による保管場所が不足しており、視聴覚ホールの活用を検討することになるが、この規模の会場は貴重であると思う。
- ・市民協働はさらに進める必要がある。決めたことをお知らせするだけでなく、市民が語りやすい切り口で図書館の運営について尋ね、市民を巻き込んで実践する取り組みが必要と思う。
- ・今後も東久留米市立図書館の核としての活動を期待する。

2. 地区館の事業について

評価できること

ア) 地域の特性を生かした事業

- ・子育て、福祉、学校教育等に関する事業は、新規の利用者獲得の契機となる。

- ・高齢者施設に出張し、読み聞かせ等を行う取り組み
- ・グリーンカーテンや東久留米の自然環境をテーマにした講座、東久留米の歴史に関する講座、保育付き講座等、大人向け、子供向け、老若いろいろな方向での事業の充実

イ) 指定管理者の工夫が見られた事業

- ・地域に向けて図書館外に出て活動する取り組み（まちゼミなど）
- ・多摩六都科学館との連携事業（科学館の地域連携事業を活用）
- ・市民参加の活動
- ・読書通帳や大人向け読書会等、地区館独自の読書推進
- ・各館独自の図書館だよりの発行

ウ) その他

- ・他市では民営化による不祥事が発生しているなか、中央館、地区館が一体となり円滑な移行を行い、さらに高度な図書館運営・図書館事業へと向上した。

今後取り組んでほしいこと

ア) 事業について

- ・可能な範囲で、図書の枠から出るイベントの提案を期待する。
- ・世代間を超えたイベントで地域の拠点になればいいと思う。
- ・親子参加、保育付き企画を継続してほしい。
- ・地域の市民防災組織の活動が活発であるので、市民参加ゼミの検討もよいと思う。
- ・高齢者のための出張（館外）貸出サービスは喜ばれるのではないかな。
- ・東久留米の自然や歴史に根ざした事業の継続を希望する。

イ) 運営について

- ・図書館運営に子ども、学生、若者のエネルギーを生かし、参加してもらうかが課題であると思う。
- ・子どもセンターひばり（児童館）の図書室や子どもへのサービスを考えてはどうか。
- ・地域センター事業が活発であり、図書館の中だけでは事業が見えにくい。地域センターとの連携や他事業に負けない工夫を望む。
- ・館長の交代（3年終了時点で2名の地区館長が交代している）は、他地域のノウハウを持ち込む良さはあると思うが、地域に根ざした活動の支障があるのではないかな、公的サービスを担う責任を優先してほしいと思う。

平成 2 7 年度 東久留米市立図書館事業及び自己評価

	担当事業	27 年度目標	活動指標	特記すべき事業や 出来事	図書館自己評価・課題
中 央	- 図書館事業全体の計画、事業進行、評価を所掌し、関連機関との調整を行う。 - 資料収集について統括する。 - 図書館システムと書誌を管理する。 - 相互貸借をはじめとする図書館連携を統括する。 - レファレンスや高度情報提供、専門機関連携等、図書館専門業務を行う。 - 東久留米に関する資料の収集・提供と関連事業を統括する。 - 第二次子ども読書活動推進計画の進行管理を行い、教育委員会と協力して学校教育支援を進める。 - 図書館協議会の運営を行う。 - 図書館運営に関する情報提供を行い、市民と協働した図書館運営を企画する。	① 資料情報の提供と課題解決支援 レファレンスサービスの向上 的確な選書による蔵書の充実	レファレンス件数 1,150 件 国会図書館デジタル化資料送信・商用データベースの利用 利用件数 44 件（複写枚数 444 件） インターネット利用端末の利用 利用件数 1,614 件 パスファインダーの発行・改訂 国会図書館レファレンス共同データベースへの登録と公開 登録 520 件 男女平等推進センター蔵書のデータ登録と公開 蔵書数 就職・仕事情報コーナー 新着案内 6 回発行	平成 27 年度、中央図書館は、先駆的取り組みである科学の本の読み聞かせをはじめとする多彩な活動により、子ども読書活動優秀実践図書館として文部科学大臣表彰を受賞した。国立国会図書館からはレファレンス協同データベースへの提供点数によるお礼状を受け、本市男女平等推進市民会議からも男女共同参画推進への貢献により表彰されるなど、多方面から高い評価を得た。 図書館フェス、一般向けおはなし会、語ろう！東久留米、パパ読事業で、4 度にわたり視聴覚ホールを満員とする参加者を得た。 また、学校と連携した調べ学習発表会の実施や七福神めぐりへの出展など、図書館内外へのアプローチも拡張し、地域との新たな連携が生まれた。	多くの新規事業に取り組み、市民の課題解決のための資料提供や子ども読書活動を発展させることが出来た。近年、継続して力を注いでいる事業の成果といえる。 平成 26 年に「東久留米市教育振興基本計画」を策定し、①課題解決のための資料提供、②地域資料の収集保存、③子ども読書活動推進の 3 つの柱が明確になり、具体的な事業を系統だてて行うことが出来るようになった。 平成 25 年度から市職員の司書を中央委図書館に集中し、同時に、図書館システム更新と書誌データの向上を図ってきたが、その成果が着実に結実している。 庁内に第二次図書館のあり方検討委員会を設置し、図書館の将来像について検討を進めてきたが、「図書館フェス」をはじめとする市民意見を聴取する取り組みやボランティアとの交流を進め、もう一つの柱である市民協働で進める図書館運営の前進を図った。
		② 展示や読書案内の充実 資料保存体制の整備や書誌情報の充実	市内在住作家・故古田足日氏追悼「古田足日さんからの贈り物」 みんなの本棚 2 0 1 5－2 0 1 6 入口テーマ展示、蔵出し展示、ミニ展示 ティーンズ夏本 1 0 0＋ 『長くつ下のピッピ』刊行 70 周年記念イベント参加 たまろくブックセレクションの開始 高遠ブックフェスティバルへの出展		
		③ 図書館の将来像を市民とともに考える事業の実施	図書館フェス 参加者 130 名 講演会「新しい図書館のはじめ方」内野安彦氏 「ひとハコ図書館」めぐり 27 団体（個人）の出展 図書館イイネカード・ヘンネカードの実施		
		④ 「語ろう！東久留米」事業の継続と出版 地域資料展や郷土意識を高める事業の実施	「東久留米駅 100 年物語」ギャラリートーク 参加者 21 名 「第 2 回語ろう！東久留米～東久留米と戦争」 参加者 86 名 講演会「北多摩の空襲と戦争遺跡」 参加者 61 名 地域資料展「東久留米のぞきめがね 川編―東のくるめと隣のめぐるとたどる―」 来場者 588 名 七福神めぐりへの出展 『語ろう！東久留米 1 50 年前の子どもの生活』刊行		
		⑤ 子ども読書活動推進計画に基づく新規事業の実施、ボランティア研修と情報共有	幼稚園・保育園訪問の開始 7 園訪問 パパ読（3 事業）児童館幼児のつどいに出張、「お父さん絵本読んで」「とよたさん絵本読んで」 参加者 124 名（子ども 55 名大人 69 名） 子ども読書ボランティア交流会		
		⑥ 学校と連携した児童の利用登録と調べ学習発表会の実施	調べ学習発表会 学校部門 127 点（全校参加）個人部門 13 点 図書館見学と利用登録 小学校 6 校の 2・3 年生で実施 小学校一年生の学校訪問（読書指導）全校で実施 中学校への授業支援（調べ学習、進路学習、職場体験）		

	担当事業	27 年度目標	活動指標	自己評価・課題	評価・課題
ひばりが丘	地域に身近な図書館として、資料提供を行う。 地域に根差した図書館を目指す。 図書館の地域の利用者に合わせた事業を行う。	行政と連携を密にし、市内の類縁機関等との協働を図り、相乗効果を発揮したサービスの提供に努める。 自主事業を強化し、事業を通じて図書館を知っていただくとともに、地域の活性化に貢献する。	【館の特徴に特化した取り組み】 ・子育て支援事業 全5回 （内2回は保育付） 【大人向け事業】 ・朗読サロン 4・10・3月（協力：図書館友の会）など 【児童向け事業】 ・物理ってこんなにおもしろい！ ・湧水の妖精るるめちゃんのぬりえ会！ など 事業参加人数 940 人（前年度参加人数 707 人前年比 133%）	前年度に比べ参加者が大幅に増加した。市内の様々な類縁機関と連携を図り、相乗効果が得られる事業を展開した。イベント後のアンケートによるとチラシを見て参加された方が最も多かった。効果的な宣伝を行うと共に、チラシをどこに配れば多く集まるのか、さらに細かな分析を進める。毎年実施している満足度調査アンケートの来館の目的の問いで、「おはなし会や講演会」を目的に来館された方が、8.7%から 13.6%に上昇した。今後さらに事業の認知度を上げ、未利用者の来館にもつなげていくことが課題である。	3 地区館においては、それぞれに地域の特性があるが（ひばりが丘図書館：団地の建て替えによる子育て世帯の増加等滝山図書館：商店街に隣接、住民の高齢化等 東部図書館：地域包括支援センターが同居、周辺が公務員住宅や都営であることから世帯の回転率が速い、統計的に子どもが多い等）平成 2 7 年度は地域の利用者に合わせた事業の実施が増えており評価できる。 しかし、図書館の事業として実施することの目的や事業内容については精査が必要である。
滝山	図書館資料の利用拡大、図書館サービスの促進に繋がる自主事業を開催する。 近隣の小・中学校や地域で活動されている団体・施設と連携した事業を進め、地域の課題解決に貢献する。	【大人向け事業】 ■読書活動の推進 ・読書会 など ■高齢者の多い地域特性に沿った事業 ・老人ホームでの読み聞かせ 【児童向け事業】 ■子どもの成長・発達に応じた読書活動の推進 ・ぬいぐるみのおはなし会 など ■児童・生徒の調べ学習・読書意欲の増進 ・調べてみよう東久留米のお地藏さん 参加者：計 7 名 【その他の事業】 ■地域連動と図書館ファンづくり ・まちゼミへの参画 ブックリスト 20 講座分を各店舗に配布 258 部	《自己評価》 ・自主事業全体を 27 年度／25 年度の参加者数で比較すると 4 倍以上の規模に増大。 ・図書館らしいオーソドックスなテーマが多いものの、「るるめちゃん」を活用した企画など、館としての創意を加味できた。 ・「まちゼミ」への参画といった新たなテーマにも取り組んだ。 《課題》 ・実績を個々に比較すると参加数の目標値と実績にばらつきがみられた。→事業の中身を見直す。 ・チラシの配布先などの情報発信活動の範囲が限定的であった。 →事業のポスターやチラシのほか、滝山図書館だより「ぽっぽ通信」の配布先も拡大する。		
東部	地域の歴史や自然に親しみのわくような事業を開催する。 事業の際には、関連資料の展示を行い、ブックリスト（参考資料あり）を配布する。そのことによって、本や図書館に継続的な関心を寄せていただくようにする。 利用する方が本を手に取り、何かを考えるきっかけとなるような資料展示を活発に行う。	【大人向け事業】 ・東久留米の鳥、日本の鳥 Part2 ～春から夏へ～ ・出張！とうぶとしょかんおはなし隊 ・東久留米歴史散歩Ⅱ ・ロマンティックな物理 ～時間・宇宙・不可逆性～ など 【児童向け事業】 ・お母さんと絵本（年 2 回開催） ・よもう！あそぼう！かがくの本（年 2 回開催） ・夏やすみこわ〜いおはなし会/クリスマスおはなし会 など 【その他】 図書館だより『レインボー』の季刊発行 新春福むすび	《自己評価》 ・「東久留米の鳥、日本の鳥 Part2」「東久留米歴史散歩Ⅱ」など、東久留米に関する事業を開催し、地域への関心を高めることができた。 ・ブックリスト・図書館だよりの配布、活発な資料展示など、いつでも本や図書館に親しんでいただけるような工夫をした。 《課題》 ・講演会はいずれも質の高い内容であったが、参加者が定員に達しないことが多かった。広報の見直しを行うとともに、開催時期や近隣施設で類似の企画が行われていないかなども考慮に入れていく。		